



知事
コラム

カイゼン

私は県庁を「最小・最強の県庁」にすると考えています。

「最小」については、県民1万人当たりの職員数が11.0人と全国平均の約半分で、既に全国最少を実現しています。最も多い県の50.8人と比べると一目瞭然です。一方「最強」の意味は県民サービスの充実度ですから、計量化は難しいものの、グローバル人材の育成や生活保護世帯の子供の学習支援など、全国モデルになっている政策が多く生まれています。「最強」についてもかなり進んできたといえます。

私は知事就任当時から県庁の県民サービスが「最強」となるよう3S^{スリーエス}カイゼン運動を進めています。3Sとは「スマイル、スピード、スピリット（公務員としての志）」の頭文字をとったものです。一般に県庁の職員は全体の奉仕者としての意識は高いのですが、

その反面、一人ひとりの県民に対してはいわゆる「愛想がない」人が多いといえます。また、間違いがあってはいけないということで慎重になりすぎて決定が遅く、スピードが足りない。さらには民間のように競争相手がいないため、つい現状に満足してしまいがちです。こうした欠点を一般的に持っています。

そこで毎年、県庁の課所ごとにカイゼン運動を行っています。年末にはノミネートされた上位の課所がプレゼンテーションを行い、民間の方々にも審査に加わっていただき最優秀賞を決定します。そして、最優秀賞に選ばれた課所には年頭の仕事始めの式で、約1,000人の職員を前にカイゼンの成果を発表してもらいます。

このようにして、県庁全体のマインドを「カイゼン」の方向に変えてきました。ここ数年は、こうした3Sカイゼン運動に加えて「もし埼玉県庁が株式会社だっ

たら」どうするという発想でカイゼン運動を行っています。通称「もし株」運動です。

例えば、「もし株式会社だったら」時間のコストを意識しない会社はつぶれてしまいます。そこで、例えば、許認可手続きを全国最短の期間で、しかも極力手続きを簡素化してできないかという目標に向け取り組んでいます。全国の各都道府県に問い合わせをしながら、埼玉県がそのスピードにおいても簡素化においても第1位になれないか現在作業を進めているところです。

もしサービスが悪い課所がありましたら、ぜひご連絡ください。すぐカイゼンします。

埼玉県知事 上田 清司

